



「Sulang」はパラオ語で「ありがとう」という意味です。(私が置かせていただいている環境に感謝を込めて)

日本は夏休みに入るところで暑くなっているところでしょう。パラオは年中暑いですが、日陰には意外とさわやかな風が吹き、涼しく感じます。流石に直射日光の下にいるとじりじりと暑さを感じます。紫外線量は日本の7倍とされています。こちらは6月初旬から7月下旬まで年度間のお休みで、夏休みのような感じです。間もなく新年度がスタートします。

先日パラオの御葬式に参加させていただいたので、今回はそのことについてレポートしたいと思います。

○パラオの御葬式

パラオの御葬式はアバイと呼ばれるパラオの伝統的な集会所で行われます。入り口には花が飾られ、日本のような祭壇は設けられず、建物の真ん中に棺が置かれて、それを取り囲むように近親者の女性が座ります。パラオでは女性が家を継いでいきます。今回の御葬式は女性だったこともあり、女性が式の中心のように感じました。アバイの中はほとんどが女性で、御葬式の出席者は200人以上でした。男性は式場のテントや椅子、前日から食事の準備や後始末を行います。



↑ アバイと呼ばれる集会所

パラオでは御葬式が行われるのは亡くなってから結構時間が経過してからになります。今回は約1カ月後だったようです。亡くなってからは1カ月の間、冷凍庫で保存するそうです。パラオではグアムやハワイを中心として外国に移り住んでいる方が多く、日程調整のために時間が必要です。また、御葬式では200名を超す参加者に魚やカニ、豚やタロイモなどのごちそうを振舞うため、その準備に多くの時間が必要になります。私も料理をいただくことができました。とても豪華でした。



↑ 魚・蟹・豚とパラオの御馳走が並び

パラオではしばしばおそろいのTシャツを作ります。御葬式も例外ではありません。生地を仕立てて、おそろいのスカートなども作って式服とします。私もTシャツをいただきました。御葬式も一体感を持って故人を偲ぼうという思いが伝わってきます。



御葬式の準備は近所の方も集まって、長い時間かけて行われます。その昔、日本でもあった姿がパラオにはあって、家族や近所の繋がりを大切にする愛情深い素敵な文化がここにはあります。↑出席者の多くが揃いのTシャツを着る